



## HIMAWARI～向陽 ICE ルーブリック～の評価方法

さまざまな授業で「HIMAWARI～向陽 ICE ルーブリック～」を使用する機会も少しずつ増えてきました。また、2月3日（金）開催予定の向陽 SSH 成果発表会の最後には、自身が1年間かけて行ってきた課題研究やディベート活動について「HIMAWARI」を用いて振り返っていただきます。そのため、今回は「HIMAWARI」への評価方法（記入の仕方）について確認しましょう。

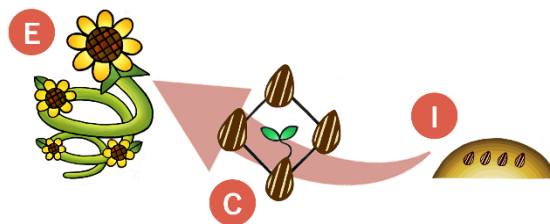
「HIMAWARI 通信 第1号」でも説明した通り、ICE モデルとは Sue F Young 氏が提唱し、カナダで開発・実践されてきた学習・評価のモデルです。I は Ideas（基礎知識）、C は Connections（つながり）、E は Extensions（応用）を意味し、I・C・E の3段階で学びの質をとらえようとするものです。学びにおける段階～アイデア (I)、つながり (C)、応用 (E)～はそれぞれ、初心者からエキスパートへ、表面的なものから新しい創造へと学びが深まっていく過程をそれぞれ表しています。

簡単に言いますと、I→C→E の順に学びがレベルアップしていくということです。「KOYO の力」(K は気づく力、O は起こす力、Y は読む力、O は教え合う力) の各項目について、例えば E レベルに O がつくということは、I レベルと C レベルにも必ず O がつくはずでです。以下に、正しい評価例と間違っている評価例を示しておきますので、参考にしてください。

『HIMAWARI』～向陽 ICE ルーブリック～

各観点において、当てはまる事柄(文章)にすべて○を付けてください(複数回答可)。

評価の観点		Ideas ～基礎知識～ 【1点】	Connections ～つながり～ 【1点】	Extensions ～応用～ 【1点】	小計
KOYO の力	向上心 (探究心)	基礎・基本の知識・技能を獲得した。	学んだこと、教科の既習内容との関係やつながりに気づいた。	学んだこと、他教科の内容や実生活の内容などとの関係やつながりに気づいた。	/3点
	課題発見力	授業内容を把握し、疑問に気づいた。	気づいた疑問から課題を設定し、その解決に向けて取り組んだ。	解決に向けて取り組む過程で新たな疑問に気づき、独自の視点で課題を再設定した。	
Okosu 起こす力	言語表現力 【資料】	授業内容を決定に起こした。	図や表、フローチャートに起こした。	相手が授業内容を十分に理解できる資料を作成した。	/3点
	言語表現力 【発表】	授業内容を言葉に起こした。	図や表、フローチャートなどを活用し、授業内容を自分の言葉に起こした。	相手が授業内容を十分に理解できる発表をした。	/3点
Yomu 読む力	先を読む力	先を読み、ゴール(仮説)を設定した。	設定したゴール(仮説)に向けての「ブローチ」の仕方を先読みした。	先読みしたゴール(仮説)とアプローチの仕方が適切か検証し、必要に応じてゴール(仮説)を再設定した。	/3点
	読解力 (情報収集力)	文章や図表、データを読み取った。	■読み取った文章を解読し、要約した。 ■図表やデータを分析し、整理した。	読み取った文章や図表、データを解釈し、自分の意見を持つことができた。	/3点
Oshieau 教え合う力	協働性	決められたペア・グループの中で、与えられた活動をした。	決められたペア・グループでの教え合いの中で、わからないところを聞いたり、他を助けたりした。	決められたペア・グループを超えて教え合いの活動をした。	/3点
	課題解決力	ペア・グループの中で、与えられた課題の内容を共有した。	ペア・グループの教え合いの中で、課題を解決した。	課題を解決するだけでなく、教え合いの活動を通して、自分と異なる考えを知ったり、新たな気づきを得たりした。	/3点
ICE 評点		I 計 /8点	C 計 /8点	E 計 /8点	総計 /24点



正しい評価例

間違っている評価例

「小計」「I・C・E 計」「総計」の欄には点数を記入